Ｂ－３　「対人世界の心理学」

（１）科目の紹介

<table>
<tr><td>基本情報</td><td colspan="2">平成 26 年度・教養教育・前期</td><td>曜日・校時</td><td colspan="2">金　3　限</td></tr>
<tr><td>モジュール名</td><td colspan="2">コミュニケーション実践学</td><td>科目名</td><td colspan="2">対人世界の心理学</td></tr>
<tr><td>教員名（所属）</td><td colspan="3">川越　明日香</td><td>教室</td><td>G-38</td></tr>
<tr><td>選択者数</td><td>42 名</td><td rowspan="2">2 年生の所属学部</td><td colspan="3" rowspan="2">教育学部　（　14 名　）　経済学部　（　26 名　）　水産学部　（　4 名　）</td></tr>
<tr><td>再履修数</td><td>2 名</td></tr>
<tr><td colspan="6">授業のねらい：
自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を実生活の中で模索することをねらいとしています。
また、将来、国際社会のリーダーとなるために、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、リーダーシップに必須のコミュニケーションの基礎を学びます。</td></tr>
<tr><td colspan="6">アクティブラーニングに向けて工夫した点：
①毎週、予習レポートを課した（期限：授業 2 日前）。授業担当者は、すべてのレポートをルーブリックで採点し、必要に応じてコメントを記入し、授業の冒頭に返却をする。授業では、予習レポートをもとに授業を展開した。
②授業の冒頭では、前時の授業内容について振り返りクイズ（クリッカー使用）を行うことで、知識の定着を図った。
②EC（Evaluation ＆ Communication）カードと称した学生による授業評価を毎時間実施し、授業改善に向けたフィードバックを行うとともに、学生とのコミュニケーションツールとして活用した。</td></tr>
</table>

（２）学修の評価

<table>
<tr><td>到達目標</td><td>（カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号）
・自分の対人関係スタイルを分析することができる（①、⑫、⑬）
・関心をもった内容について、グループプレゼンテーションを適切に行うことができる。（③、⑤、⑫、⑬）
・リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。（①、⑦）
・コミュニケーションのもつ機能について説明することができる（⑦、⑨）
・ディベートを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。（②、③、⑤、⑬）
・対人世界における自分の行動課題を適切にまとめることができる。（④、⑤、⑩）</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td>授業外課題（2 点×15 回）＋出席（1 点×15 回）＋授業内活動（15 点）＋試験またはレポート（40 点）＝100 点のうち、60 点以上を合格とします。</td></tr>
</table>

（3）授業の進行

概要		
回	学習内容	授業方法（講義、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝなど）
1	オリエンテーション	
2	**セルフコーチングとは**、自己紹介プレゼン	講義、プレゼン
3	自己紹介プレゼン、**印象形成とは**	プレゼン、講義
4	**説得のテクニックとは**、ロールプレイ準備	講義、グループワーク
5	説得のロールプレイ、**交渉とは**	グループプレゼン、講義
6	**様々な対人関係とは**、レポートの書き方、テキスト要約	講義、グループワーク
7	テキスト要約	グループワーク
8	テキスト担当章のプレゼン	プレゼンテーション
9	テキスト担当章のプレゼンレゼン、補足	プレゼンテーション
10	身近なリーダーシップ行動、**リーダーシップ理論とは**	KJ 法、プレゼンテーション、講義
11	**PM 理論とは**	講義
12	あなたにとってのフロントランナー	プレゼンテーション
13	**フロントランナーとしての私とは**、ディベート準備	プレゼンテーション、講義、グループワーク
14	**良いリーダーシップとは**	ディベート、講義
16	（15 回目に試験）**試験の振り返り**	講義

（4）授業の成果

全体の総括	オリエンテーション時にレポートの出し方、引用参考文献の表記方法、フォーマットの提示、LACS の使い方、受講に臨む姿勢等について細かくルール決めを行った。そのため最後まで学生の意識は継続できていたように思う。 また、座席は他学部の学生同士になるようグループを構成したため、最初はグループワークに戸惑いが見られたが、後半はチームワーク力がついたようにも思う。
今後の改善点	さらに本授業を充実させるためには、モジュールテーマ内で相互の授業参観を行うことなどによって、教員団の相互理解を図り、充実に向けた方法を話し合う必要がある。

（5）アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	・学生の目的意識の明確化 ・安心して発言できる環境作り ・ルーブリックによる到達目標の明示
参考になる資料	ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ著（佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳）（2014 年）『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部

（別添資料）